

第2回文化財方法論研究会の開催

立体物である文化財の形を記録する方法として、3次元計測の方法が近年、取り入れられてきています。奈良文化財研究所においても、文化財の計測は研究や保護の基礎として設けられ、より研究が進められてきました。

従来、専門的な技術と特殊な道具が必要であったこれらの技術ですが、汎用の機材や低価格の機材により複数の技術が現実的に利用可能になってきました。特に、コンピュータービジョンと呼ばれる機械に視覚を持たせるための技術により生み出された方法では、市販のカメラとコンピューター、それにソフトウェアを組み合わせることで対象物の立体モデルを作り出すことが可能になります。

文化財方法論研究会は現実的に利用可能な文化財の研究方法について立場を問わず、多様な方々と気楽に研究発表や技術の共有をおこなうことを目的として運営されている研究会です。私たちの研究室も参加しています。

今回は、写真を用いた3次元計測を中心に、利用の現状を紹介していただき、また使用方法に興味を持たれた方への初級・中級のハンズオンとして利用方法の講座をおこないました。参加者は大学や自治体、企業の研究者、個人で地域史の研究を進められている方、学生等幅広い参加者を得ることができました。今後とも、このような試みを通じて多くの人が利用可能な考古学の方法を広く共有していくとともに、興味ある誰もが参加できる集まりをもっていきたいと思っています。

(埋蔵文化財センター 金田 明大)



研究会の様子